

留意点について

1 自動的に電源が切れてしまわないために

バッテリー使用時では、一定時間何も操作しないと、バッテリーの消耗を防ぐためのパワーセーブモードになり、自動的に電源が切れてしまいます。コンセントに接続して使用しましょう。

ディジタルビデオカメラをバッテリーで使用しているとき、一定時間何も操作しないとバッテリーの消耗を防ぐため、パワーセーブモードにより自動的に電源が切れてしまう場合があります。テープへの録画中やテープの再生中には働きませんが、テープに録画せず撮影している映像をリアルタイムでプロジェクタから投写する場合は働いてしまいます。

授業でディジタルビデオカメラを使用する場合は、電源用コードでコンセントに接続して使用することをお勧めします。コンセントに接続して使用しているときには、パワーセーブモードは働きませんので自動的に電源が切れる心配はありません。

2 教師自身が被写体になる場合

教師が演示操作している様子をディジタルビデオカメラで撮影し投写する場合、教師自身が被写体になりますので、撮影者がいません。そこで三脚があると便利です。

教師が演示操作している様子をテープに録画せず、撮影している映像をリアルタイムでプロジェクタから投写する場合、教師自身が被写体ですから自分でディジタルビデオカメラを持って撮影することができません。このようなときには三脚があると便利です。三脚を使用する場合、注意点がいくつかあります。

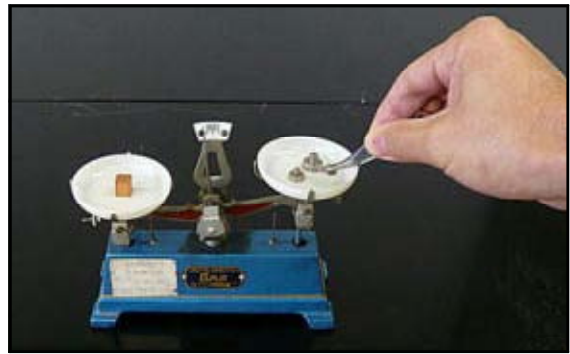
三脚の大きさ

教師用の机で行うような演示操作の場合、三脚が大きいと置く場所を確保できなかつたり、演示操作の邪魔になつたりする場合があります。小さめの三脚があれば机の上に置くことができ置く位置を動かすときにも扱いやすくなります。



撮影する方向

撮影する方向は、生徒に何を教えるために何を提示するのかによって決まります。演示操作を撮影して提示する場合、操作の手本として真似しやすい演示操作を見せるために、操作する生徒の視線と同じ方向から撮影するとわかりやすいものになります。



手ぶれ補正機能

手ぶれ補正は、デジタルビデオカメラを手で持って撮影するとき、手ぶれによる映像の揺れを軽減する便利な機能です。デジタルビデオカメラを三脚に固定して撮影するときには、手ぶれは起きませんのでこの機能は必要ないわけですが、撮影しているものの動きによっては、手ぶれではないのにこの機能が働いてしまい、見えにくい映像になってしまう場合があります。デジタルビデオカメラを三脚に固定して撮影する場合は、手ぶれ補正を解除した方がよいでしょう。

< 液晶モニターに、MENU画面を表示します。 >

MENUボタンを押す



MENU画面が表示される



< 設定メニューの中から、手ぶれ補正を選択し、設定を「切」にします。 >

ジョイスティックを動かし内容を選択し、手ぶれ補正の設定を「切」にする



最後にMENUボタンを押す